

さくらだより (46号)

2015年3月25日発行

最近10代の女性も子宮頸がん検診をうけていただく比率が増しているように思います。会社での人間ドックでも子宮頸がん検診がオプションでついている例も増えています。子宮頸がんは年間約1万人の日本人女性が発症し、約2700人が死亡しています。原因はほぼ100%近くがヒトパピローマウイルス(HPV)の感染です。HPV感染は性感染症です。女性の約8割はHPV感染の経験がありますが、がん発症に至るのはそのうちの0.1%程度です。ワクチンによる予防が可能で欧米では接種率が70~80%に上ります。HPVにはいくつかの型がありすべての型の感染をワクチンで防げるわけではありませんが接種により発症リスクは30%程度まで下がるとされています。HPVのワクチンを接種し更にがん検診をすれば、ほぼがんにはなりません。欧米では子宮頸がんも過去のがんになるでしょう。日本も予防接種法に基づく定期接種が可能になりましたが、痛みや運動障害による健康被害のため、接種推進がおくれています。早くこの状況を打開して“子宮頸がん大国”にならないようにしないといけません。

子宮頸がん検診（細胞診・HPV併用）の結果

異常なし(NILM)		軽度病変疑い (ASC-US)		軽度病変(LSIL) 高度病変疑い (ASC-H) 高度病変(HSIL) 扁平上皮癌(SCC) 腺癌疑い(AGC) 腺癌 (Adenocarcinoma) その他の異常
HPV 陰性	HPV 陽性	HPV 陰性	HPV 陽性	
3年後健診	1年後健診	精密検査（コルポ下生検）		

☆2014年度のARTの成績です。今年度も皆様の幸福のために頑張ります。

採卵件数・・・374例【～29歳17例、30～34歳55例、35～39歳134例、40歳～168例】

受精方法別
 { 体外受精・・・259例
 { 顕微授精・・・105例

融解件数・・・369例【～29歳23例、30～34歳77例、35～39歳160例、40歳～109例】

移植件数・・・382例【～29歳27例、30～34歳80例、35～39歳161例、40歳～114例】

妊娠数・妊娠率（移植あたりの胎嚢陽性率）・・・145例(38.0%)

【～29歳12例(44.4%)、30～34歳41例(51.3%)、
 35～39歳62例(38.5%)、40歳～30例(26.3%)